

歳時記のある暮らし

二〇二五年

《五月》

風薫る新緑の季節となりました。

皆様、すこやかに過ごしてでしょうか。

いつも『神秘の健康力』をご愛用いただき誠にありがとうございます。

新緑が輝く五月、日ごと緑が深くなる若葉が初夏の雨に濡れると、いつそうの瑞々しさを感じます。このころの雨を翠雨すいうといいます。「翠は草木の緑をさす美しい呼び名です。

一日は、立春から起算して八十八日目の「八十八夜」。田植えや茶摘みを始めるころです。まろやかで風味豊かな新茶はこの時期の楽しみですが、長い冬の間、じっくりと養分を蓄えて出てきた新芽からできる新茶は古来から不老長寿の縁起物とされてきました。庭仕事ではアサガオの種播きや、トマト、モウリ、ゴーヤなどの夏野菜の苗植えの時です。真夏の暑さ対策として緑のカーテンとなる葉の大きいヘチマを仕込むころです。

目には青葉 山ほととぎす 初鰈うなぎ

山口素堂

目に爽やかな「青葉」、美しい鳴き声の「ほととぎす」、旬のご馳走「初鰈」と、初夏の醍醐味を爽やかに詠んでいます。ところがこの句は俳句の世界ではルール違反とされる体言止めの三段切れと、「季重なり」という手法が使われています。俳句では季語は一つだけという約束ですが、「青葉も「ほととぎす」も「初鰈」もすべて季語です。しかしながら、体言で区切る齒切れのよいリズム感、目に、耳に、味覚にと、初夏の魅力を五感に訴える躍動感が心地よく、この句は一躍有名となりました。

江戸時代、「かつおは「勝魚」につながる縁起のよい食べ物。江戸子の間では「初鰈」を食べることが粋の証でした。初物には他の食べ物にはないパワーや生気があふれ、それを食べることで新たな生命力が宿り、寿命が七十五日延びるといわれていたようです。本来の私たちはこの句のように、旬を視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚という「五感」で感じ取ってきました。ところが最近では、特に食生活において旬を感じにくくなってきています。この句は季節の魅力を五感で知ることの喜びを伝えてくれるような気がします。

(裏面へ続きます)



『神秘の健康力』

定期購入 30粒 2,700円(税込)～

商品の注文・変更をご希望の場合は、下記にお電話ください。

☎0120-63-2222

※おかけ間違いにご注意ください。

【営業時間】

9:00～18:00 (12/31～1/2は休日)

五日は「立夏」。暦の上で夏が始まる日で「端午の節句」でもあります。この日に古代中国では菖蒲湯に入り菖蒲酒や蓬酒を飲んで邪気を払いました。江戸時代になると「菖蒲」と武道を重ねることを意味する「尚武」が結びつき男の子の節句になりました。端午の節句に食べる柏餅の柏の葉は、新芽が出るまで古い葉が落ちないことから、家系が絶えないめでたさが込められています。鯉のぼりは、鯉が清流ではない沼でも生きていける生命力の強い魚であること、激しい流れの滝を登り切った鯉は竜になるという中国の故事になぞらえて、子供の成長と立身出世を願うためにはじまりました。五日からは七十二候の「蛙始鳴（かわずはじめてなく）。気温が上がり草木の成長が増してくると生き物たちの動きも活発になってきます。苗が青々と育つ水田でカエルが鳴き始めます。きれいな水路にはメダカやドジョウ、ヤゴやタニシもやって来てのどかな田園風景に鳥も含めた生態系が筑木されます。

十日からは「蚯蚓出（みみずいずる）。畑土をほぐし害虫を食べてくれるみみずは農家の味方です。

十五日からは「竹笋生（たけのこしょうず）。筍が竹になりグングン伸びるころです。

二十一日からは「蚕起食桑（かいこおきてくわをはむ）。蚕が桑の葉をたくさん食べて育つころ。さなぎになるときのまゆから美しい絹糸がでできます。

二十一日の「小満」を迎えると木々の葉が生い茂ってきます。麦の穂がつき、梅が実をつけはじめます。

五月も下旬になると「卯の花くたし」という数日間ほど天気がぐずつくことがあります。本格的な梅雨に先駆けて、梅雨を思わせるような雨天が続く様子を表しています。

湿度も高くなってきますので、そろそろ梅雨対策や衣替えの準備をいたしましょう。

健康対策には『**神秘の健康力**』。商品のご注文やご変更などございましたらいつでも（0120・63・2222）までご連絡ください。

皆様のご健康をお祈り申し上げます。

金氏高麗人参株式会社

ふもてなし係お手紙担当 久郷直子

